



# 鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## 聖書の言葉

『一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。』

聖書(コリント書①12章26節)

牧師 河合裕志

パウロ(紀元1世紀の人)は人間の体を観察してこんなことを言っている。

～体は一つでも多くの部分から成っている。そしてどの部分も大事なものであって、目が手に向って、お前は要らない、などとは言えない。同様に頭が足に向って、お前は要らない、などとも言えない～

それはそうだよ。目も手も、頭も足も大切なもの、なくてはならないもの。これが故障すれば大変なことになる。不自由きわまりない。この他にも耳や鼻や口、そして様々な命にかかわる臓器から成っている。心臓や肺がストップすれば万事休すになりかねない。

どの部分も大事だと言うことはパウロに言われなくてもよくわかってる。なぜ彼はこんなわかり切ったことを言う。それはこう言って教会も体のようなものだよ、と教えたいから。

教会が体と言うのは一寸わかりにくい。彼は記す。『あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です』。パウロは信徒の集合体、これが教会というものだけど、これを「キリストの体」と断言する。これはなかなかユニーク。

キリストは今どこにいる? 天の父なる神

の右に座している、というのが聖書の告げているところ。ただこのキリストは地上にあっては教会として存在しているということ。これをキリストの体と言った。

信徒が集まって礼拝を捧げる、そのただ中にキリストは目に見えない姿で存在すると信じられている。キリストの犠牲の体と血を表すパンとブドウ酒を信仰をもって頂く時にそこにまたキリストは臨んでいると受け取っている。これはそう信じる他ないのだけれど。

こういうことで教会をキリストの体と言っている。そして信徒一人一人は洗礼を受けることによって一人のキリストに結び合わされた部分、部分ということに。どの部分、メンバーもなくてはならない大切な存在ということに。そして冒頭の言葉につながって行く。共に苦しみ共に喜ぶということ。これが真に生きたキリストの体・教会というものだよ、とパウロは言う。そんな教会に近づいて行きたいもの。

ところでこの共に苦しみ共に喜ぶことは人間の集まる場所ではどこでも期待されるところでは。家庭、学校、会社、地域社会、更に日本、世界でそうあることが願われるのでは?

### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時